

CONTENTS

新館開館5周年記念企画展 平戸松浦家伝来の至宝	2
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	3
企画展 生誕190周年記念 箕作秋坪	4
友の会のページ 史跡見学会報告	5
資料館展示品から	6
NEWS FILE	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 15

February, 2015

鏡野町役場から越畑方面へ、県道392号線を約6km北上すると香々美北郵便局に行きつきます。そこを左折し、山間の道を300m程入ると、道の先に朽ちかけた土蔵が見えてきます。ここは、津山藩医を務めた久原洪哉くはらこうがいが生まれた、難波家の跡です。洪哉は、1825(文政8)年に医師難波周造の長男ももだにとして百谷ひゃくたにに生まれ、京都や大坂で医術の修業に励みました。28歳で津山藩医久原玄順くはらげんじゅんの養子となり、津山での種痘の普及に貢献。1870(明治3)年には、藩主の奥方の乳ガン摘出手術を成功させています。洪哉の号「百溪ひゃくせき」は「百谷」の地名にちなむものと思われ、郷里への愛着を感じさせます。(鏡野町百谷)



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



岩下先生 ◆ 山本先生



▲左から
田村教育長、
ローデリック・
ウォルス総領事、
岡山館長

なお、本展の開催にあたりましては、公益財団法人松浦史料博物館の皆さまに貴重な史料の出版をはじめ、格別なるお力添えを賜りました。心よりお礼申し上げます。

洋学資料館が新館に移転して、5年目を迎えました。その記念企画展として、初期の日欧交流で重要な役割を果たした平戸とその領主松浦家を紹介した「平戸松浦家伝来の至宝」を開催しました。
初日の10月11日(土)にはオープニングセレモニーを実施し、在大阪神戸オランダ総領事館のローデリック・ウォルス総領事、松浦史料博物館の岡山芳治館長にご臨席いただき、テープカットを行いました。その後、岡山館長による特別展示解説もいただき、参加された方々は貴重な史料の数々にじっくりと見入っていました。

津山洋学資料館新館開館5周年記念企画展

平戸松浦家 伝来の至宝

会期：平成26年10月11日(土)～11月9日(日)



▲岡山館長による特別展示解説

長崎県の南西部に位置する平戸は、16世紀半ばにポルトガル船がはじめて入港し、次いでスペイン、オランダ、イギリスの船も来航。オランダとイギリスは商館を設置して、江戸幕府によってオランダ商館が長崎の出島へ移転させられるまでの約90年間、ヨーロッパとの交易によって「西の都」といわれるほどの繁栄を極めました。

洋学や蘭学、さらに西洋文化受容の歴史は、平戸なくして語ることはできないのです。
本展では、松浦家に伝来した海外交流関係史料21点を展示し、近世初期の対外政策の変遷と、その中で松浦家が果たしてきた役割をご紹介します。観覧された方からは、「日本の外交史を語る上で重要な史料ばかり。津山で見ることができるとは」という感激の声が寄せられていました。

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 江戸幕府が選んだ「鎖国」政策 — 平戸松浦家史料の魅力 —

基調講演 講師：東京大学史料編纂所教授 山本博文先生
対談 東京大学史料編纂所教授 山本博文先生
明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部教授 岩下哲典先生

記念企画展のオープニングに引き続き、午後からは4回目となる歴史文化フォーラムを開催しました。今回は、企画展と連動させるというはじめての試みで、「江戸幕府が選んだ『鎖国』政策—平戸松浦家史料の魅力—」のテーマで、東京大学史料編纂所教授の山本博文先生に基調講演をいただきました。

最初に先生は、平戸におけるポルトガル貿易の歴史からお話を始められました。ポルトガル貿易とキリスト教布教は密接につながっており、豊臣秀吉はバテレン追放令を出して宣教師の国外追放を命令。江戸幕府でも、キリスト教信者が命令に従わなくなることを恐れた徳川家康が禁教令を發布します。秀忠、家光はその政策をさらに強く進展させ、キリスト教の禁制を目的として、結果的に貿易が制限され、そしてそれが幕府の対外政策の方向性となったことを説明されました。さらに江戸後期の外国船の相次ぐ来航の中で「鎖国」が祖法として認識されるようになります。そのためペリー来航時に幕府が強要されて開国した際、全国的な批判運動につながったのだそうです。

最後に「鎖国」によって、他国との衝突を避け、輸入に頼らない国内産業の育成と国富の蓄積が行われ、結果として2世紀半に及ぶ平和な時代がもたらされたとお話を結ばれました。

休憩の後は、山本先生と明海大学教授の岩下哲典先生による対談を行いました。参加者からいただいた質問をもとにして次々と展開されるお話には、皆さん引き込まれるように聞き入っていました。



▲田原政之助墓所（津山市西中）



▲豊福家墓所（美作市下町）上山さん（左）からお話をうかがいました



▲田原金太夫墓所（佐用町佐用）



▲法光寺で記念撮影

第27回友の会史跡見学会 箕作秋坪の祖 菊池家の史跡を訪ねて

11月29日（土）第27回友の会史跡見学会を実施しました。今回は箕作秋坪の生誕190周年にあわせ、秋坪の実家である菊池家の始祖・田原金太夫（のちに菊池応輔と改名）の関係史跡をめぐる予定です。金太夫は秋坪から4代前、高祖父にあたり、吉野郡下町村（現在の美作市）に赴任してきましたが、長男政之助は夭折し、娘の理喜子が医師の正因と結婚して菊池家を継ぎました。正因は晩年久世（現在の真庭市）の学問所・典学館に招かれて塾主となり、典学館のちに皆部へ移転して教諭所と改称。正因の孫で、秋坪の父である文理

がその学監を務めました。そのため、菊池家の史跡は佐用町や美作市、真庭市の各地に点在しているのです。資料館をバスで出発し、最初に訪れたのは金太夫の長男政之助が眠る法光寺（津山市西中）です。墓所をお参りし、わずか10歳で亡くなった政之助を偲びました。それから一路美作市まで移動し、金太夫の妻の墓所、そして金太夫が政之助の供養のために建立した題目碑をお参りしました。この墓所と題目碑は元々別の場所所にありましたが、そこに線路が敷設されることになり、菊池家の縁戚にあたる豊福家が自家の墓所へ移されたのだそうです。ここでは

豊福家ご後裔の上山訓子さんが、移転の経緯などをお話ししてくださいました。上山さんに見送られてバスは最後の目的地、金太夫の墓所（佐用町）へ。大公孫樹を見下ろす山裾の墓所をお参りしながら、参加された方々は家族が離れた地で眠っていることに感慨深そうにされていました。平福で昼食と町並み散策をしてから、無事資料館へ帰着。当日は雨の予報にもかかわらず晴天に恵まれ、充実した見学会となりました。各見学地でお世話になりました皆様、心からお礼申し上げます。



箕作秋坪が生まれてから、今年でちょうど190年を迎えます。この節目の年にあわせ、近年資料館に収蔵された史料を中心として構成する、初の秋坪回顧展を開催しました。秋坪は1825（文政8）年、儒学者・菊池文理の二男として備中国皆部（現在の真庭市皆部）に生まれました。江戸に出て津山藩医・箕作阮甫に入門し、その才を認められて26歳で阮甫の養子となります。藩医の仕事のかたわら、ペリー来航時には藩から偵察を命じられて浦賀に赴くなど、洋学者として幅広い活躍をしました。また、幕府の書和解御用にも出役し、幕府の使節に随行して2度ヨーロッパへ渡つて、外交交渉にも従事しています。明治維新後は私塾・三叉学舎を開いて多くの弟子を育成。その中には、のちに明治大正期の教育や経済界で重責をなす人物も多くおり、福沢諭吉の慶応義塾と並んで英学塾の「双壁」と称されたのでした。しかし、これほどの活躍の一方で秋坪は、『明六雑誌』に掲載した「教育談」の他には、自身の考えを示すような著述はほとんど残していません。その中で、秋坪に迫る手がかりとなったのは、知人や家族に宛てた手紙でした。明治初年頃に、阮甫の弟子で津山藩の大目付や家令を歴任した中澤廣江に送った手紙では、教育の重要性和学校設立の必要性が説かれており、教育者としての考えを窺うことができます。また、「形ばかり西洋化し、古来の良法が失われている」などといった懸念も述べられていて、秋坪の新時代への思いを知ることができます。子どもたちに宛てた手紙からは、勉学を励まし健康を気遣う父親の姿が伝わってきます。

観覧された方からは「手紙の筆致から秋坪の几帳面な人柄が窺える」「教育に対する考えは現代にも通じる」などの声が寄せられています。本展は3月15日（日）まで開催していますので、ぜひご覧ください。最後にりましたが、本展の開催にあたりご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

資料館展示品から

ヨーロッパ留学中の日々
家族への思いを綴る

えびらうめにつぎ
『箴梅日記』



▲「箴梅日記」と箕作元八
「箴梅日記」は東京大学出版会より翻刻出版されています。絶版になっていますので、図書館などでぜひ読んでみてください。

これは、明治期に西洋史学者として活躍した箕作元八（箕作阮甫の孫）の日記です。

元八は、25歳から7年間、さらに38歳から3年間で、ヨーロッパへ留学しました。この日記は2度目の渡欧時、日本出発からドイツ、フランス、イギリス滞在まで（最後のアメリカ旅行部分は欠）の2年2ヶ月分の記述を7冊にまとめたものです。平成19年に、ご後裔の井出萌子さんと笠原直躬さんからご寄贈いただきました。

表題の「箴梅」とは、梅の小枝を箴（矢を入れて背負う筒）にさして戦いに臨んだ武士の故事に倣

い、その姿を旅立つ自身になぞらえたのでは、といわれています。日記には、元八が研究に邁進する姿や他の留学生たちとの交遊、また万博や博物館での見聞などが、時に絵も交えながら生き生きと記録されています。元八のみならず、当時の留学生たちの状況を知る上で、とても貴重な資料なのです。

その中に、元八の家族への思いが綴られた箇所があるので、少しご紹介します。

この日記は、少しずつ書きたためは、日本の家族へ送っていたのですが、同時に、家族からも日記

が送られていたことが、記述から分かります。この時元八には妻光子との間に長女綾子、長男秋吉、次女縫子がいきました。子どもたちの字が上達している、と喜んだり、子どもたちへ送る玩具を買った際には「目を開閉する人形を買いたるに、なんとなく縫子に似たる様にて、しきりに家のことを思い、しばしば件の人形を出してながめ

おり…」などと、その心情を吐露しています。

家族との交換日記は、研究への一層の励みとなる一方で、望郷の念にかられることにもなったようです。 文：学芸員 田中美穂



▲岡玄卿関係資料

明治天皇の侍医頭
岡玄卿関係資料が
寄託されました

明治天皇の侍医頭を務め、崩御にも立ち会った津山ゆかりの医師・岡玄卿の関係資料合計97件130点を、ご後裔の岡四郎さん、岡興世さんからご寄託いただきました。

玄卿については、当館の下山純正前館長が、岡四郎さんと連絡を取り合いながら、長年研究を続けており、この度の寄託につながりました。著書、医療器具、拝領品など、玄卿の活躍を伝える貴重な資料群で、今後のさらなる研究につながっていきたく思います。

NEWS FILE
観光ボランティア
研修会で館長講演

11月7日（金）、岡山県観光ボランティア連絡会の研修会で、小坂田館長が「おかやま蘭学ことはじめ」と題して講演を行いました。岡山県は、津山だけでなく緒方洪庵（足守出身）をはじめとし、各地域から多くの蘭学者が出ています。それだけに各市町村から参加された130名のボランティアガイドの皆さんは、熱心に話を聞いておられました。終了後には活発に質問も出ていました。



「てくてく」も観光
ボランティアガイド研修

「てくてく」も観光ボランティアガイドの皆さんが、研修のため資料館を見学されました。

これは津山市観光協会が公募した、高校生や大学生などこどもたちのボランティアガイドです。今年度発足したばかりで、10月25日（土）には中学生と高校生が1名ずつ、12月21日（日）には美作大学の学生4名が来館されました。

皆さんとても熱心で、館長の説明に相づちをうったり、メモをとったりしていました。『解体新書』に感嘆する場面もありました。



オムニバス講演会開催

1月25日（日）、オムニバス講演会（学芸員による研究報告会）を開催しました。

前々回は宇田川榕菴、前回は箕作阮甫の『西征紀行』をテーマとしましたが、今回スポットを当てたのは企画展、史跡見学会でも取り上げた箕作秋坪です。秋坪は様々な活動をしている分、そのひとつひとつの細かな部分には知られていないこともあるのでは、との想いから「意外に知らない!! 箕作秋坪の真実」を統一テーマに

しました。

「出版せよ!! 『扶氏経験遺訓』」(小坂田)では、秋坪が学んだ適塾の師・緒方洪庵が『扶氏経験遺訓』を刊行する際に、秋坪がどのような役割を果たしたかを、洪庵の手紙から分析しました。また、「遣欧使節随行者 秋坪ヨーロッパへ行く」(乾)では文久遣欧使節の軌跡を、「三又学舎の日々」(田中)では、秋坪の私塾・三又学舎の教育法を紹介しました。

参加された方からは「報告会では、普段紹介されないような細かい部分に触れるので面白い」との、嬉しいご感想をいただきました。



乾次長
▼小坂田館長



INFORMATION

平成26年度の催し物

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「花、開くー榕菴の植物研究ー」 19 第69回文化講演会 講師：天理大学准教授 小暮実徳 先生 19 友の会総会 (休館日：21・28・30日) 	花、開くー榕菴の植物研究ー 3/23～6/22
5月	(休館日：7・8・12・19・26日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 8 友の会研修バス旅行 (休館日：2・9・16・23・30日) 	資料・モノ・がたり 7/5～9/22
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「資料・モノ・がたり」 26 親子でヒンデローペンの作品づくり 27 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：7・14・22・23・28日) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 2 江戸時代の化学書からの再現実験教室 (休館日：4・11・18・25日) 	10/11～11/9 新館開館5周年記念 平戸松浦家伝来の至宝
9月	(休館日：1・8・16・17・22・24・29日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「新館開館5周年記念 平戸松浦家伝来の至宝」 11 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム「江戸幕府が選んだ「鎖国」政策 - 平戸松浦家史料の魅力 -」 山本博文先生・岩下哲典先生 (休館日：6・14・15・20・27日) 	11/22～ 生誕190周年記念 箕作秋坪
11月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「生誕190周年記念 箕作秋坪」 29 友の会史跡見学会 (休館日：4・5・10・17・25・26日) 	
12月	(休館日：1・8・15・22・24・29～31日)	生誕190周年記念 箕作秋坪 3/15
1月	<ul style="list-style-type: none"> 25 学芸員による研究報告会 (休館日：1～3・5・13・14・19・26日) 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> 22 冬季講演会「実感！体感！舎密開宗」 講師：津山工業高等専門学校准教授 廣木一亮 先生 (休館日：2・9・12・16・23日) 	
3月	(休館日：2・9・16・23・24・30日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

・・・ 刊行物のお知らせ ・・・

■ 洋学研究誌『一滴』第22号を刊行します
(3月下旬予定)。

目次


- シーボルトの絵師、川原慶賀と Carel Hubert de Villeneuve による絵画制作について
…野藤 妙 (1)
- 宇田川榕菴訳『生石灰之解凝力』とその原著
…野村正雄 (17)
- 宮本周安『采真謾筆』一馬場佐十郎、吉雄忠次郎、青地林宗、岩崎灌園らが語る文政7～9年の江戸の蘭学事情
…吉田 忠 (43)
- 平成25年度企画展報告
生誕180年記念 岸田吟香 ～わがふるさととは～ (75)
杉田玄白生誕280年記念
解体新書と美作の洋学者たち (79)
よみがえる長崎出島のくらし (83)
くらしと実学 - 在村知識人の活動 - (91)
- 『錦窠先生通信録』の翻刻 - 乾ノ一 (2の2) -
…土井康弘 (120(1))

■ 全120頁 800円

平成27年度春季企画展

津山藩医
久原家の幕末・明治

会期：平成27年3月21日(土)～6月21日(日)



第70回文化講演会

近世日本とオランダ
- 日欧文化の交流と融合 -

講師：熊本県立大学准教授
平岡隆二 先生

日時：平成27年4月18日(土)13:30～
会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

ご利用案内

- 開館時間／9：00～17：00
(入館は16：30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



- 交通のご案内
- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分